

1 団体の状況

◆団体の概要

京急グループ共同企業体は、上大岡駅を主要な拠点とする京急グループの2社（株）京急アドエンタープライズ、京急サービス（株）と、舞台技術・ホール運営会社として実績のある（株）クラフトによる3社で構成され、港南区民文化センター「ひまわりの郷」（以下、本センターと記載）の指定管理業務を平成18年より、3期15年に渡って運営してまいりました。

本センターのある「ゆめおおおか」は、市営地下鉄と京急線合わせて20万人を超える乗降客が利用する上大岡駅のほか、大型商業集積、オフィスタワーを内包する複合施設であり、その中でも、核となる京急・上大岡駅、主たる商業施設である京急百貨店、ウイング上大岡においては、代表企業である（株）京急アドエンタープライズが、各種イベント、プロモーションのサポートをしているほか、ゆめおおおかオフィスタワー20階に横浜支店上大岡営業所を置く京急サービス（株）が、「ゆめおおおか」の総合管理（設備管理、清掃、警備等）を担当しており、ゆめおおおか管理組合との円滑なコミュニケーションでハード、ソフトの両面での対応が可能な体制を築いております。特に京急グループ施設においては、専用PRボードを有しているなど、京急グループを挙げてのPR活動を行っています。

本センター運営においても、自主事業利用者アンケート調査では、スタッフの対応・サービス、施設・設備について、良かったとの回答が80%以上と、満足度も高く、良くないという評価は1%に満たない結果となっており、本企業体の技術・カルチャースタッフの対応も高い評価を得ております。カルチャースタッフについては、地域の方々を積極的に採用し、今後も地元雇用への貢献と地域ネットワーク形成の強化につなげていきます。

一方で、第3期の半ばに、目標未達の項目があったことや、令和2年度はコロナ禍で利用者の激減に直面するなどのことから、令和2年は改めて本センターの運営課題に向き合い、業務運営改革、新たなコンテンツ提供への取組を模索する時間に充て、令和3年度より本格的に展開しているところです。

この15年間、地域の皆さまとの信頼関係を築き、円滑な運営・管理により、ファンの方々も増えてきましたが、より幅広い層の方々にも愛される館として、これまで培った経験と実績をもとに、更なる文化・芸術活動振興への寄与、コミュニティの創造と活性化を目指し、当企業体の総合力を発揮し取り組んでまいります。

◆各社の概要

株式会社 京急アドエンタープライズ

[代表団体]

京急アドエンタープライズは、平成4年に京急グループのハウスエージェンシーとして誕生し、以来、京急沿線地域を中心に、グループの一員としてのネットワークを活かしながら、多岐にわたる業容を持つ各グループ会社の広告戦略づくり、広告制作、イベント運営などを行ってきました。

現在では、グループ企業にとどまらず、様々な一般企業、行政や官公庁のほか、羽田空港国際線ターミナルの開業を機に、海外企業のプロモーションなども受注するまでに成長し、これらのプロモーション、イベント運営を通じて得たノウハウを活かし、指定管理等の各種受託事業も行っております。

常に、クライアントニーズを的確に判断し、新たな発想や技術と、沿線ネットワークや京急のグループ力を活用した効果的なコミュニケーション戦略で、クライアントのみならず、地域住民の方々にも価値を感じていただけるサービスの提供を目指しています。

経営理念

- ◆ 当社は、コミュニケーションビジネスを通して、京急グループおよび沿線の、新たな価値を創造し、お客様の事業の繁栄と、社会の発展に貢献します
- ◆ 当社は、一人ひとりの創意と、全員の団結により、お客様に感動とよろこびを提供します
- ◆ 当社は、会社の繁栄と、全員の幸せを追求します

1 団体の状況

◆各社の概要

株式会社 クラフト

【構成団体】

クラフトは、昭和 57 年に照明デザイン、オペレーションを主とする舞台技術サービス提供企業として設立。同年、森ビル株式会社の文化施設運営事業の開始とともに、文化施設設計コンサルティング・文化施設運営管理を業務とする「ホール管理部」を設置し、日本における多目的ホールの草創期に、設計コンサルティングとして、新しい設備提案、設計思想を導入するとともに、民間企業の採算性を重視した管理スタイルを構築してまいりました。

昭和 62 年には、イベント企画・演出・制作・運営を業務とする「企画制作部門」を新設し、行幸啓式典・企業式典などの企画演出では、緻密な設計と正確な進行を提供しています。中でも国体開閉会式典においては、地域の歴史、文化をテーマとした構成劇を企画し、地元文化団体、児童・学生、地域伝統芸能の演者・制作者とともに、開催県民協働創造事業を創造した実績があります。

技術面では、先端舞台技術を活用するクライアント（浦安のテーマパーク）とのイベント制作や異能プランナーとのコラボレーションにより、最新技術・手法を習得し、デザイン・オペレーションから、企画演出にいたるまで、様々な形でとり入れ応用しております。

経営理念

私どもが目指すのは【創造的なコミュニケーションサービスの提供】

最新の技術を導入することを躊躇することなく、時代に反応した若々しい感性を持ち続け、
そして同時に現場に立脚した慎重さを忘れることがないこと。

このことを通じて、お客様のニーズにマッチした、コストパフォーマンスの高い、
質の高いサービスを提供していくことを行動基準に、あくまでも For the Customer を使命としております。

京急サービス株式会社

【構成団体】

京急サービスは、昭和 46 年に京浜急行電鉄(株)の 100%出資子会社として設立し、レジャー事業（ボウリング場、ゴルフ場、スイミングスクール経営等）を主とした事業を行ってきました。現在では、事業の軸を建物総合管理事業に移行し、東京都・神奈川県を中心としたエリアで、日々、安全で快適な環境づくりを担っております。

官庁・民間（オフィスビル、ホテル、ショッピングセンター等）の建物管理業務を主要事業とする一方で、一般家庭向けの生活支援事業としての家事代行サービスや生花・造園・植栽管理事業、駐車場管理事業に加え、認可保育園の運営も行い、沿線地域の皆さまに密着した便利サービスも提供しています。

また、建物管理業務に付随した建設業許可を必要とする工事や廃棄物処理業務も行っており、多種多様なお客様のニーズに応える事業を展開しております。

経営理念

沿線地域の皆さまの生活に密着したサービスを提供します

私たちは、お客さまの満足を最優先に考え、安全・安心・快適な生活環境をつくるとともに、
新しい価値の創造に挑戦し、地域社会に貢献します。

1 団体の状況

◆各社の財務状況

株式会社 京急アドエンタープライズ

[代表団体]

次の経営指標 7 項目について、平成 29 年度から平成元年度まで検討した結果、収益性・健全性・生産性など、いずれの指標も良好であり、無借金経営であることから、すぐれた財務内容であるといえます。

- 1.流動比率（短期の支払能力）：順調に伸びているので健全であるといえます。
- 2.固定長期適合率（長期資産の固定資産への投下程度）：減少しており、健全であるといえます。
- 3.売上債権回転期間（売上債権の回収点間）：
毎年度 2.2 ～ 2.7 ヶ月で回転しているため、大変健全であるといえます。
- 4.総資本当期純利益率（企業活動の収益性）：
毎年度 10.0% 以上を出しているので大変健全であるといえます。
- 5.売上高経常利益率（売上に対して本業以外の損益も含めて、経営活動によって得た利益率）：
毎年度 5.3% 以上出しており、大変健全であるといえます。
- 6.自己資本比率（総資本に占める自己資本の割合）：
毎年度 60% 以上出しているので、大変健全であるといえます。
- 7.総資本回転率（資本の利用度）：毎年度 2.0 回以上を出しているので大変健全であるといえます。

		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	比率の目安
流動比率	流動資産 / 流動負債	%	280.1%	296.2%	264.6%	150.0%
固定長期適合率	固定資産 / 固定負債 + 自己資本	%	12.6%	12.0%	10.0%	100.0%
売上債権回転期間	売掛金 / 1ヶ月平均売上高	ヶ月	2.6	2.2	2.7	3
総資本当期純利益率	税引前当期純利益 / 総資本	%	10.6%	10.6%	14.6%	5.0%
売上高経常利益率	経常利益 / 売上高	%	5.3%	5.3%	7.1%	3.2%
自己資本比率	自己資本 / 総資本	%	60.1%	62.0%	60.6%	40.0%
総資本回転率	売上高 / 総資本	回	2.0	2.0	2.1	1

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	(単位:千円)
流動資産	3,266,740	3,476,416	4,186,344	
売掛金	1,543,891	1,360,713	2,091,681	
固定資産	303,013	315,190	289,377	
資産合計	3,569,753	3,791,606	4,475,721	
流動負債	1,166,114	1,173,623	1,582,330	
固定負債	253,532	264,949	169,998	
負債合計	1,419,647	1,438,572	1,762,328	
株式資本	2,144,517	2,352,356	2,713,254	
純資産合計	2,150,106	2,353,034	2,713,392	
総資本（負債・純資産合計）	3,569,753	3,791,606	4,475,721	
売上高	7,196,115	7,514,659	9,197,576	
経常利益	378,219	401,724	653,775	
税引前当期純利益	378,219	401,724	653,775	

1 団体の状況

◆各社の財務状況

株式会社 クラフト 【構成団体】

次の経営指標7項目について、平成29年度から平成元年度まで検討した結果、収益性・健全性・生産性など、いずれの指標も良好であるといえます。

- 1.流動比率（短期の支払能力）：令和元年度は大幅に伸び、健全であるといえます。
- 2.固定長期適合率（長期資産の固定資産への投下程度）：減少しており、健全であるといえます。
- 3.売上債権回転期間（売上債権の回収点間）：
毎年度0.6～2.1ヶ月で回転しているため、大変健全であるといえます。
- 4.総資本当期純利益率（企業活動の収益性）：
年度によって上下がありますが、売上が少ない際には総資本を減らして対応しています。
- 5.売上高経常利益率（売上に対して本業以外の損益も含めて、経営活動によって得た利益率）：
平成29年度は業務受注の端境期に当たり一時的な減収となった。
- 6.自己資本比率（総資本に占める自己資本の割合）：
毎年度35%以上出しているため、健全であるといえます。
- 7.総資本回転率（資本の利用度）：毎年度1.4回以上を出しているため大変健全であるといえます。

		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	比率の目安
流動比率	流動資産/流動負債	%	251.6%	250.8%	335.7%	150.0%
固定長期適合率	固定資産/固定負債+自己資本	%	66.7%	58.1%	61.6%	100.0%
売上債権回転期間	売掛金/1ヶ月平均売上高	ヶ月	2	2.1	0.6	3
総資本当期純利益率	税引前当期純利益/総資本	%	-5.0%	1.3%	-2.4%	5.0%
売上高経常利益率	経常利益/売上高	%	-3.5%	0.8%	-1.7%	3.2%
自己資本比率	自己資本/総資本	%	42.1%	37.6%	42.4%	40.0%
総資本回転率	売上高/総資本	回	1.5	1.4	1.5	1

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	(単位:千円)
流動資産	134,363	186,996	135,513	
売掛金	72,037	79,411	21,783	
固定資産	162,188	155,996	152,619	
資産合計	296,551	342,992	288,133	
流動負債	53,393	74,572	40,367	
固定負債	118,248	139,288	125,676	
負債合計	171,640	213,860	165,043	
株式資本	124,911	129,132	122,090	
純資産合計	124,911	129,132	122,090	
総資本(負債・純資産合計)	296,551	342,992	288,133	
売上高	435,196	463,497	439,205	
経常利益	▲15,371	3,763	▲7,512	
税引前当期純利益	▲14,852	4,304	▲6,957	

1 団体の状況

◆各社の財務状況

京急サービス株式会社

【構成団体】

次の経営指標 7 項目について、平成 29 年度から平成元年度まで検討した結果、収益性・健全性・生産性など、いずれの指標も良好であり、無借金経営であることから、すぐれた財務内容であるといえます。

- 1.流動比率（短期の支払能力）：順調に伸びているので健全であるといえます。
- 2.固定長期適合率（長期資産の固定資産への投下程度）：数値的に健全であるといえます。
- 3.売上債権回転期間（売上債権の回収点間）：
毎年度 2.2 ～ 2.4 ヶ月で回転しているため、大変健全であるといえます。
- 4.総資本当期純利益率（企業活動の収益性）：
毎年度 7.0% 以上を出しているので大変健全であるといえます。
- 5.売上高経常利益率（売上に対して本業以外の損益も含めて、経営活動によって得た利益率）：
毎年度 4.8% 以上出しており、大変健全であるといえます。
- 6.自己資本比率（総資本に占める自己資本の割合）：
毎年度 60% 以上出しているので、大変健全であるといえます。
- 7.総資本回転率（資本の利用度）：毎年度 1.4 回以上を出しているので大変健全であるといえます。

		単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	比率の目安
流動比率	流動資産 / 流動負債	%	267.9%	242.5%	332.9%	150.0%
固定長期適合率	固定資産 / 固定負債 + 自己資本	%	33.2%	37.7%	36.1%	100.0%
売上債権回転期間	売掛金 / 1ヶ月平均売上高	ヶ月	2.4	2.4	2.2	3
総資本当期利益率	税引前当期純利益 / 総資本	%	10.5%	10.4%	7.0%	5.0%
売上高経常利益率	経常利益 / 売上高	%	6.7%	5.9%	4.8%	3.2%
自己資本比率	自己資本 / 総資本	%	62.2%	61.4%	69.3%	40.0%
総資本回転率	売上高 / 総資本	回	1.6	1.4	1.5	1

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
流動資産	5,781,241	6,303,735	5,677,265
売掛金	2,388,196	2,349,794	2,161,318
固定資産	1,799,559	2,239,795	2,242,132
資産合計	7,580,800	8,543,530	7,919,397
流動負債	2,157,795	2,599,234	1,705,629
固定負債	705,833	700,585	724,389
負債合計	2,863,628	3,299,819	2,430,018
株式資本	4,717,172	5,243,711	5,489,379
純資産合計	4,717,172	5,243,711	5,489,379
総資本（負債・純資産合計）	7,580,800	8,543,530	7,919,397
売上高	11,909,326	11,833,355	11,706,826
経常利益	799,737	703,410	557,705
税引前当期純利益	799,737	888,418	557,705

(単位:千円)

2 団体の実績

◆各社の実績

株式会社 京急アドエンタープライズ

【施設運営管理 請負業務】

平成 9 年	4 月～	横浜新都市センター株式会社 (横浜ポルタ) インフォメーション運営業務
平成 18 年	4 月～	横浜市港南区民文化センター指定管理業務
平成 21 年	8 月～	京浜急行電鉄株式会社 (京急ご案内センター) コールセンター運営業務
平成 26 年	4 月～	川崎市港湾振興会館 (川崎マリエン) 指定管理業務
平成 29 年	8 月～	京急 TIC (Tourist Information Center) 外国人向け観光案内所・羽田 運営業務 *平成 30 年 4 月～ 同施設、品川運営業務開始
令和 2 年	1 月～	京浜急行電鉄株式会社「京急ミュージアム」運営業務

【イベント企画運営業務】

平成 29 年	1 月	港南区「第 38 回港南区ランニング大会」運営業務
平成 29 年	2 月	防衛省南関東防衛局「平成 28 年度 日米スポーツ交流事業イベント」運営業務
平成 29 年	6 月	横須賀市観光協会「開国 Dancin' 2017」制作運営業務 *平成 30 年 5 月、同イベント 2018、同業務受注
平成 29 年	6 月	YY のりものフェスタ実行委員会「よこすか YY のりものフェスタ 2017」会場設 営・運営業務 *令和元年、同イベント 2019、同業務受注
平成 29 年	7 月	横浜市ほか「横浜スパークリングトワイライト 2017」会場内運営業務 *平成 30 年 7 月、同イベント 2018、同業務受注
平成 30 年	3 月	横浜市緑の協会「よこはま動物園ズーラシア春イベントガーデンパーティー」制 作・運営業務
平成 30 年	8 月	横浜アーツフェスティバル実行委員会「高校訪問ワークショップ ダンス部応援プ ロジェクト」運営業務
令和元年	5 月	横浜市次世代育成 (TICAD 7) 100 日前イベント運営業務
令和元年	10 月	横浜市「里山ガーデンフェスタ」企画業務
令和元年	11 月	横浜市「ラグビーワールドカップ 2019」ファンゾーン運営業務
令和 2 年		ANA ウインドサーフィンワールドカップ横須賀・三浦大会 2021 企画制作運 営業務【中止】

他、行政、一般企業のイベント企画運営実績多数あり。

弊社は、毎年横浜市、横須賀市をはじめとする京急沿線の自治体における文化・スポーツ関連イベント運営の実績を積み上げてきました。令和 2 年からは、京急グループの本社移転に伴い開業した「京急ミュージアム」の運営業務を行うことにより、文化事業運営ノウハウの蓄積とネットワークの広がりがさらに進んだと言えます。これらの経験を活かして、本センターの新たなコンテンツづくりや運営に取り組んでまいります。

2 団体の実績

◆各社の実績

株式会社 クラフト

【同類 事業業務実績】

施設名	所在地	施設概要	業務内容	業務期間
ラフォーレミュージアム 原宿	東京都 渋谷区	ホール（スタンディング約 600 人、着席約 400 人） / ロビー / 楽屋	運営・管理	昭和 58 年～
新都市ホール	横浜市 西区	ホール（860 m ² ） / ホワイエ（410 m ² ） / ミーティングルーム（3 室）	運営・管理	昭和 60 年～
パークタワーホール	東京都 新宿区	ホール（450 m ² / シアター 520 名） / ギャラリー 1・3（各 210 m ² ） / アトリウム（400 m ² ）	運営・管理	平成 6 年～
中央会館	東京都 中央区	ホール（900 席）	舞台・照明管理	平成 15 年～
港南区民文化センター	横浜市 港南区	ホール（381 席） / ギャラリー（112 m ² ） / 音楽ルーム（43 m ² ） / 会議室 A・B（各 25 m ² ） / 練習室 A・B（24 m ² / 17 m ² ）	指定管理	平成 18 年～
表参道ヒルズ・スペースオー	東京都 渋谷区	イベントスペース（448m ² ） / ホワイエ（100 m ² ） / 控室（3 室）	運営・管理	平成 18 年～

【イベント業務実績】

イベント名	業務内容	業務期間
国民体育大会・全国障害者スポーツ大会	開閉会式総合演出	平成 15 年 静岡 / 平成 18 年 兵庫 平成 21 年 新潟 / 平成 22 年 千葉 平成 23 年 山口 / 平成 26 年 長崎 平成 28 年 岩手 / 令和元年 茨城
日本体育協会・日本オリンピック委員会 創立 100 周年記念式典	開会式総合演出	平成 23 年 東京
全国育樹祭	開会式総合演出	平成 24 年 静岡 / 平成 25 年 埼玉 平成 26 年 山形
ねんりんピック山口	開閉会式総合演出	平成 27 年 山口

株式会社クラフトは、昭和 57 年の創立以来培ってきた照明・音響・映像をはじめとした舞台技術と、最新技術を融合させ、更なる進化を目指すとともに、40 年近くにわたるホール運営ノウハウを活かした、運営力を発揮していきます。

また、国体の開閉会式をはじめとする、地域の文化芸術を通じた市民との協働性を重視した企画・演出を遂行してきた経験を活かし、より協働性を高めた港南区の文化振興に貢献して参りたいと考えております。

2 団体の実績

◆各社の実績

京急サービス株式会社

【指定管理者業務実績】

- ①港南区民文化センター指定管理業務（平成 18 年～）
- ②川崎市産業振興会館指定管理業務（平成 26 年～）
- ③横須賀市体育会館施設指定管理業務（平成 26 年～）
- ④横須賀市立自転車等駐車場指定管理業務（平成 27 年～）

【同種事業 業務実績】

- 昭和 58 年～ 京急第 1 ビル 総合管理業務（設備管理・警備・清掃）
- 昭和 62 年～ 横浜市能見台 集中監視センター業務（機械警備）
- 昭和 63 年～ 横浜駅東口地下街（ポルタ） 総合管理業務（設備管理・警備・清掃）
- 平成 8 年～ 上大岡・京急百貨店 総合管理業務（設備管理・警備・清掃・駐車場管理）
ゆめおおかオフィスタワー（清掃・警備・駐車場管理）
- 平成 9 年～ 横須賀リサーチパーク 1 番館・2 番館 総合管理業務（設備管理・警備・清掃）
横須賀集中監視センター 機械警備業務
- 平成 10 年～ NTT 移动通信網 YRP 研究所 警備業務
- 平成 10 年～ 東京都港区台場・ホテルグランパシフィック（現・グランドニッコー東京 台場）警備・清掃・駐車場管理業務
- 平成 10 年～ 川崎地下街（現・アゼリア） 清掃業務 翌 11 年～ 設備管理業務も開始
- 平成 16 年～ ホテル YRP 警備・清掃・駐車場管理業務
- 平成 20 年～ 鉄道警備センター開設（鉄道列車内警備）
- 平成 24 年～ みなとみらい線（新高島駅、元町・中華街駅） 設備管理・清掃業務
- 平成 31 年～ 資生堂グローバルイノベーションセンター清掃業務
- 令和元年～ 京急グループ本社ビル 総合管理業務（設備管理・警備・清掃・受付・植栽管理）
- 令和 3 年～ 関東学院大学金沢八景キャンパス・金沢文庫キャンパス設備管理業務

【港南区内保育事業 業務実績】

- 平成 14 年～ 京急キッズランド 上大岡保育園開設
- 平成 19 年～ 京急キッズランド 上永谷保育園開設

*その他、横浜市内（4 園）、川崎市内（2 園）、全 8 園の認可保育園を運営。

京急サービスは創立 50 周年を迎え、これまで建物総合管理事業を主体とした様々な事業を展開してきました。それらの経験を活かして、港南区民文化センター「ひまわりの郷」のお客さまに対し、新型コロナウイルスに伴う新しい生活様式の対応も含めて、安全・安心な管理をし、快適な空間を提供して参ります。

2 団体の実績

◆港南区民文化センター「ひまわりの郷」の運営実績

京急グループ共同企業体は、前述の通り、本センターの指定管理業務を3期 15年にわたり務めてきました。その中で安定的な運営を実現し、継続的に行ってきた自主事業については、ブラッシュアップを続けながら地域に根差すものとなってきています。主な実績、成果は下記のとおりです。

1 15年間の歴史の中で築き上げた「安全・安心の運営体制」

職員による日常の施設巡回点検と、専門業者による施設、空調、エレベーター、エスカレーター等の定期点検を確実に行うとともに、清掃専門業者が常に清潔な環境を維持し、感染症予防も徹底しています。

また、ホール設備についても、舞台・音響・照明の各専門スタッフが、楽器類、舞台機構、音響・照明機器の点検、整備を日々行っており、機器の故障、不具合等が発生した場合は速やかに対応し、お客様にご負担の無いよう努めています。

これらの取組により、人身事故を含めた大きな事故、事件等を起こすことなく、15年間の指定管理を務めることができました。

加えて、区役所、警察署、消防署、ビル全体を管理する横浜市住宅供給公社との連携を取り、常に迅速な対応ができる体制も整っており、今後も安全・安心、かつスムーズな運営が可能と言えます。

2 質の高い音楽に触れられる身近な本格的ホールとして、親しまれる存在に

本センターの最大の価値ともいえる、専門家の間でも定評のある音の良い本格的ホールの強みが発揮できる自主事業にこれまで力を入れてきました。

特に、1年に10回程度開催してきた「オアシスコンサート」は、国内外で活躍する著名な音楽家を招いて行われる大人のための上質なクラシックを提供する公演で、クラシックファンも満足できる内容として評価され、毎回ほぼ完売の人気企画となっています。

さらに多くの方々に気軽にクラシックコンサートを楽しんでいただくために、入場料を比較的安価に設定（入場料：1,000円）した平日に行う「ウィークデー・コンサート」も、区民の方々の支持を集め、クラシックコンサートを楽しめる身近なホールとして認知が進んでいるといえます。

クラシックコンサートのほかにも、「ひまわり紀行」と銘打った、日本の古典芸能や和楽の公演を年に2回行い、「オアシスコンサート」に次ぐ人気企画として、クラシック音楽に興味の無い方々の動員に貢献しています。

これらの鑑賞型事業は、リピート率が非常に高く、質の高い音楽に触れられる本格的なホールとして、区民、市民の方々から親しまれる存在となっています。



オアシスコンサート (R1年度)
「アルカディア・クアルテット」



ウィークデー・コンサート (H30年度)
「奥村愛ヴァイオリンリサイタル」



ひまわり紀行 (H30年度)
和太鼓「一心一打」

2 団体の実績

◆港南区民文化センター「ひまわりの郷」の運営実績

3 「ひまわりならではの」個性のある自主事業展開

●KSDC (こうなんストリートダンスコンテスト)

市民によるプロデュース・参加型事業として、平成 19 年から 13 年継続して開催している、高校生の、高校生による、高校生のためのダンスコンテスト。横浜市内の高校に在籍、もしくは在住の高校生が、港南区の後援や地元企業の協賛を得て、チームの募集から、本番の舞台造作、ゲストのキャスティング、表彰式に至るまでを自分達で企画運営するという貴重な経験を提供できる名物事業です。平成 25 年からは、区民の強い要望もあり、Under-15 の部も新設し、参加者の裾野を広げてきたほか、最近では優勝チームが地域の複数の施設に招かれパフォーマンスをするなど、地域への波及効果も見られる事業へと成長しました。

●器楽ワークショップ

平成 18 年からスタートした「器楽ワークショップ」は、初心者でも新たに楽器にチャレンジできるきっかけを提供。現在「ギター」「フルート」「三味線」の 3 種の楽器を対象として各全 10 回のコースを週末に行っており、これまで延べ 800 人以上のコース修了生を輩出してきました。コースの最後は、ギターとフルートによる合同演奏会と各コースでの発表会を行い、修了後も修了生同士で発表の場をつくるなど、その後のつながりを生む企画となっています。

●アウトリーチ事業

アウトリーチ事業や、横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業（学校プラットフォーム事業）も積極的に取り組んでおり、再公演の依頼も多くなっています。

特に、芸術鑑賞の会場へ足を運びづらい高齢者の方々の施設での「出前コンサート」は大変好評な事業となっています。

また、プラットフォーム事業では、区内の小学校、中学校、特別支援学校等で、普段目にすることがあまりない、ユニークな楽器や創作楽器などが体験できるプログラム（バンドネオン&民族楽器体験）を提供し、好評を博しています。

●障害を持つ人の参加型事業

障害を持つ方の文化芸術への接点を増やすため、自身が参加できる「手話ミュージカル」を平成 20 年から、毎年開催。年に 1 度オープンで行われる「サマーフェスタ」では、港南区社会福祉協議会等と連携し、数々の作業所制作の作品展示やワークショップを行っており、多くの区民、市民の参加を得ています。



KSDC2019 ポスター



器楽ワークショップ R1 年度
合同発表会(上)三味線発表会(下)



アウトリーチ事業 H30 年度
のこぎりコンサート@蓬莱荘



プラットフォーム事業 H30
年度 バンドネオン&民族楽器
体験@上大岡小学校



手話ミュージカル H30 年度
きいろぐみ

2 団体の実績

◆港南区民文化センター「ひまわりの郷」の運営実績

3 「ひまわりならでは」の個性のある自主事業展開

●子どもの健全育成・情操教育を目指した事業の積極展開

次世代を担う子どもたちへ向けた事業にも力を入れており、鑑賞型、体験型、ワークショップなど、さまざまな角度でアプローチし、複数展開してきました。いずれも安定した動員を図っており、ニーズの高さが伺え、着実な成果の得られる事業となっています。

1. ウェルカムキッズコンサート

0歳児から入場できる親子向けコンサートとして年に6回開催。幼児連れでも気兼ねなく楽しんでいただくためのコンサートとして人気のある事業です。

2. こどもミーツ♡オーケストラ

「こどもミーツ♡オーケストラ」は、「ひまわり管弦楽団」の協力のもと、平成18年から年に1回（午前・午後2回公演）開催しており、実際にステージに上がって、オーケストラの指揮者や演奏者を実際に体感できる体験型事業です。

3. リトミックシアター

「45シアター」と銘打った音楽ホールで行うワークショップの1つで、幼児教育の専門家による1歳から2歳児を対象としたリトミック教室（音楽を用いた身体、知的・精神の健全育成学習）は毎年完売となり、音楽を通じた次世代を担う子どもの育成事業として貢献しています。

4. ひまわりファミリーミュージカル

「横浜シティオペラ」との協業で行っている市民参加型の事業。子どもたちと高齢者を含む大人たちが、一つの演目の公演に向け、練習を重ねる事業で、一度参加した人は、リピートする傾向も強く、未来へ持続する可能性を秘めた存在へと成長してきました。



ウェルカムキッズコンサート R1年度「オーケストラの博物館」



こどもミーツ♡オーケストラ



リトミックシアター



ひまわりファミリーミュージカル

4 安定的な稼働率と施設利用者数を確保

下表のとおり、利用者数は、第1期の平均は、約103,300人、第2期は104,000人、第3期は約106,200人と、毎年約10万人で推移（コロナ禍の影響を受けたR元年、R2年を除く）しており、ホール、ギャラリー、会議室、練習室の稼働率は、毎年80%台をキープし、R元年、R2年を除く、平均稼働率は、83.1%となっています。これは利用者からの一定の信頼を得、継続利用にもつながっている結果と考えられます。一方で、新たな利用者、利用層の取り込みを図る必要性があり、第4期については、稼働率の変化を見ながら、新しい企画事業の導入等で新規利用者の拡大を目指していきます。

【各期の利用者・稼働率の推移】

年度	第1期					第2期					第3期				
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
利用者数(人)	106,287	100,367	98,075	105,662	106,276	109,531	101,516	99,728	107,261	102,041	100,156	112,080	106,330	98,777	29,608
全館稼働率	87%	86%	82%	84%	85%	83%	84%	81%	80%	81%	81%	84%	83%	83%	63%

3 指定管理業務実施にあたっての基本的な方針

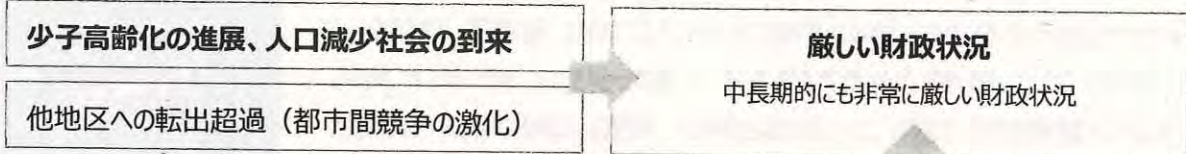
◆市の文化政策かつ施設の使命への理解

※重点事項を赤字で記載

【横浜市の現状】

◆横浜市を取り巻く主な状況

* 横浜市中期 4 年計画、横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方策定の背景



環境に配慮した持続可能な社会形成が求められる

・技術革新や産業構造の変化への対応/郊外部の活性化/防災、減災対策/老朽化した公共施設の整備/戦略的・計画的な土地活用 など、行政は、さまざまなニーズへの対応が求められている

コロナ禍がもたらした人びとのライフスタイルの変化

- 人の集まる場所を避け、自宅や近隣で過ごす生活
- 余暇の時間の増大と健康意識の更なる高まり
- テレワークやテレコミュニケーションが一気に進み、オフィス街から住宅地（郊外）へ人の流れの分散化が促進
- 生活、娯楽の双方において、ネット利用が一気に拡大し、文化・芸術の発信もネット配信がスタンダード化

アフターコロナにおいても、便利さや快適さが享受できる暮らし方は継続する可能性が高い。

(いっぽうでデジタル格差の課題もある)

【本センターが重視すべき事項】

*出典：住民基本台帳令和 2 年 9 月 30 日現在

少子高齢化の進展、人口減少社会に対する取組

港南区は、横浜市の 65 歳以上人口が全市人口の 24.6%であるのに対し、**28.7%***と非常に高く、既に 2030 年時点の全市の推計割合を上回っており、他区に先駆け少子高齢化が進展しているエリアであるため、あらゆる世代がポテンシャルを発揮できるための取組の重要性は十分に理解しています。高齢者が心身ともに健康で過ごすための取組として、現在も行っている高齢者施設へのアウトリーチ事業のほか、未病対策コンテンツの提供、講師やボランティアとしての活躍の場を設けるなどの取組みが必要と考えております。また、子育て支援についても、区内の子育て支援施設や大学と連携し、「食育」「あそび」「工作」などのワークショップの開催や、子ども向けイベント開催時に育児相談窓口を設けるなど、区他機関のポータルとなる活動も行うなど、女性の活躍や子どもたちの育成の一助となる活動を行ってまいります。

コロナ禍で変容したライフスタイルに合ったコミュニケーションとコミュニティづくりへの取組

コロナ禍では、仕事、学校もインターネットの利用が推奨され、貸し会議室利用者の間でもリモートニーズが高まりました。コンサートやイベントの開催が難しい中で、世の中のアーティストは発表の場をネット配信に求めるしかない状況になった一方で、これまで、会場に足を運ぶのが困難だった方々も同じイベントに参加し、同時に感想を述べあえるといった、新たな文化芸術の楽しみ方と新たなコミュニティが出現しました。高齢者の方々にはハードルが高い点もありますが、ソーシャルインクルージョンの観点からも、ライブとネットの双方で情報を発信し、ネット上のコミュニティも築いていくことが重要と考えております。

3 指定管理業務実施にあたっての基本的な方針

◆市の文化政策かつ施設の使命への理解

※重視事項を赤字で記載

【横浜市の政策】

①横浜市基本構想(長期ビジョン) ～これからの20年、横浜が目指す都市の姿～

*平成18年(2006年)議決 = 2026年ぐらいまでのビジョン

市民力と創造力により新しい「横浜らしさ」を生み出す都市

②横浜市中期4か年計画 2018-2021(平成30年～令和3年)

【基本姿勢】

- (1) SDGsの視点を踏まえた取組み (2) データ活用・オープンイノベーションの推進
 (3) 地域コミュニティの視点に立った課題解決

2030(令和12)年を展望した、横浜の持続的な成長・発展を実現するために、6つの戦略を掲げているが、そのうちの1つ目は、「力強い経済成長と文化芸術都市の実現」としており、その具体的政策の1つとして下記の「政策5」を定めている。

政策5. 文化芸術創造都市による魅力・賑わいの創出

文化的に豊かな市民生活の実現と都市の活性化、プレゼンスの向上を目標とした政策。

【現状と課題】

- 質の高い文化芸術に触れる場が必要。
- 「横浜トリエンナーレ」は、最新現代アートに触れられる国際展として定着し、「Dance Dance Dance @YOKOHAMA」「横浜音祭り」の継続的な開催により横浜のプレゼンスの向上とまちの賑わい創出に貢献している。
- 企業・NPO・大学との連携事業「創造界限」の活性化推進は、新たなビジネス機会の創出への期待につながっている。
- 文化施設の老朽化による大規模修繕の必要性が高まっている。
- 地域資源となる歴史・文化遺産や公共空間等の積極利用による、まちの活性化も必要。

【横浜市の政策についての理解】

横浜市を取り巻く状況を踏まえ、都市の活力を維持するためには？ = 持続可能な都市づくりのためには？

住みたい・住み続けたい、内外の人が繰り返し訪れる、
 魅力ある都市としてのアイデンティティを確立することが重要

横浜市では、そのための取組として、人と人の絆を育む源泉となり、多くの人々を引き付ける魅力となる文化芸術を通じた都市基盤づくりを具体的な戦略・政策を立てて実行しており、そのプライオリティは高いと認識しています。

【本センターが重視すべき事項】

*令和元年度 港南区区民意識調査より

文化芸術活動を通じて港南区のあらゆる人々がつながりを持ち、共にずっと住み続けたいと思えるまちへ

港南区民の意識調査*では、定住志向率は81%と、愛着を持っている人が多いと言えますが、子育てをする人、障がい者のためのサービス、区民が楽しく参加できる文化・スポーツイベントなど、人々の交流の場・機会に関するイメージが低くなっており、交流の場の提供とその広報活動が重要だと痛感しております。

については、**利用者の裾野を広げる施策**に力を入れるほか、文化芸術を「観る」から「する」に変え、「自分事」として人とつながりが持てる**体験型事業**、**港南区に対する誇りや愛着の持てるコンテンツ**の提供を行い、**本センターを中心としたコミュニティを育てていくことが重要**と考えます。それらの展開については、地域資源となる区内のスポットを訪れるフィールドワークなども含めて検討しており、**館内以外での活動や情報発信も視野**にいれております。

3 指定管理業務実施にあたっての基本的な方針

◆市の文化政策かつ施設の使命への理解

※重点事項を赤字で記載

【横浜市の文化政策について】

◆横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方

「横浜市基本構想」および「横浜市中期 4 年計画」に掲げる目指すべき都市像の実現に向け、「文化芸術創造都市」に関する施策展開の基本的な考え方をまとめたもの。(概ね 2022 年までの取組骨子) *平成 24 年 12 月(2012 年)横浜市文化観光局

「横浜市文化芸術創造都市施策の基本的な考え方」で示される文化芸術の定義

いわゆる「芸術」のみではなく、「伝統文化」や「生活文化」などを含む幅広く多様なもの

【展開の視点】 市民、地域、NPO や団体、民間企業、学校等との連携・協働を基本に、3 つの視点を重視して展開

ア 横浜らしさ イ コミュニティの活性化 ウ 賑わいづくり、経済の活性化

- 【基本理念】 ●人びとの活力や創造力の源泉であり、市民生活の向上につながる文化芸術の振興を図ります。
- 文化芸術のもつ創造性を様々な施策に生かして、コミュニティの活性化を図るなど、創造的な街づくりを進めます。
- 横浜の社会資源を生かした創造的な取組や、人々に感動を与える文化芸術の展開により、賑わいづくりと活性化につなげます。

【基本方針】

1 市民の文化芸術活動を支援し、心豊かな市民生活の実現を目指します

- 鑑賞・創作・体験・発表の場の提供
- 文化芸術活動を生かしたコミュニティの活性化
(地域課題の解決につながる活動支援)
- 市民・NPO・アーティストが行う文化活動支援

2 子どもたちをはじめとする次世代育成を進めます

- 子どもたちの文化芸術体験活動の充実
- 新進アーティストの発掘・育成・支援
- 文化芸術を支える人材の育成・支援

3 アーティスト・クリエイターを支援し、創造性を生かしたまちづくりを進めます

- アーティスト・クリエイターの集積を推進
- 創造的産業につながるネットワーク形成
- アーティスト・クリエイターへの支援機能の充実

4 賑わいづくり、観光 MICE 振興にもつながる、横浜らしい先進的な文化芸術を国内外に発信します

- 芸術フェスティバルの開催等による文化芸術を通じた国内外への魅力発信
- 文化芸術の国際交流の推進
- 専門文化施設からの発信力強化

【本センターが重視すべき事項】

文化芸術を通して人と港南区民の心豊かな生活を実現し、持続可能なコミュニティ形成を目指す

本センターは、地域に密着した施設であることから、区民に対して上質な文化芸術と、活動の場を提供することで、心豊かな生活の実現を目指すことが第一義と考えます。一方で、この基本的な考え方の中で定義されている文化芸術は、幅広く多様なものという考え方の通り、生活や地域に関連した文化芸術にスポットをあて、生活に役立つ、彩りを加えるなど、できるだけ幅の広い層が興味を持てるような身近に感じるコンテンツの提供で利用者の裾野を広げ、交流機会を増やしていくことも重要と考えます。また、未来の文化の担い手となる子どもたちへの文化的体験提供にも力を入れ、地域にそして本センターへの愛着を醸成することも、持続可能なコミュニティ形成を目指す上でも重視すべきことと考えております。

3 指定管理業務実施にあたっての基本的な方針

◆市の文化政策かつ施設の使命への理解

【国の文化芸術に関する法令と政策】

「文化芸術基本法」/「文化芸術推進基本計画～文化芸術の「多様な価値」を活かして未来をつくる～」

【文化芸術の価値】

- 文化芸術の本質的価値 = 人びとの生きがい・よりどころ
 - ・豊かな人間性を涵養し、創造力と感性を育むなど人間が人間らしく生きるための糧。
 - ・自己認識の基点となり、文化的な伝統を尊重する心を育てる。
- 社会的・経済的価値 = 多様性を受け入れる心豊かな社会形成
 - ・他者と共感しあう心を通じて人間相互の理解を促進し、人々が共に生きる地域社会の基盤を形成する
 - ・新たな需要や高い付加価値を生み出し、質の高い経済活動を実現する。
 - ・人間尊重の価値観に基づく人類の真の発展に貢献する。

【文化芸術振興について】

上記の価値を鑑み、伝統的な文化芸術の継承と発展、独創性のある新たな文化芸術の創造の促進に取り組むことが重要。そのためには、表現の自由の重要性を深く認識し、文化芸術活動を行う者の自主性を尊重し、国民の身近なものとして包括的に施策を推進していくことが不可欠。

【本センターが重視すべき事項】

文化芸術の価値の提供と、それを共感できる機会と場を創出し、そこで出会った人たちが、さらに自主的に文化芸術活動を行うコミュニティを形成していくサポートをしていくことが重要と考えます。

【指定管理期間(令和4～8年度)における市に関する主要行事に関して】

横浜市では、平成13年(2001)から、「第1回 横浜トリエンナーレ」を開催。その後、「Dance Dance Dance @YOKOHAMA」「横浜音祭り」と、アート、ダンス、音楽という、3つのカテゴリーでのイベントを継続的に開催することで、横浜のプレゼンス向上と、まちの賑わい創出につなげてきました。この取組を各地域へ広げることで、世界への発信のみならず、市民全体の活力増進へとつなげていくとしています。

開催スケジュール：令和4年・7年(2022・2025) 横浜音祭り / 令和5年・8年(2023・2026) 横浜トリエンナーレ
令和6年(2024) Dance Dance Dance @ YOKOHAMA

【本センターが重視すべき事項】

周期的催事との関連イベント開催で文化芸術への興味や参加意識を醸成します

これまで「横浜音祭り」に関しては連動企画を開催しましたが、他の2企画についても、地元のアーティストによる美術展やダンスチームによる公演の開催も視野にいれ、盛り上げていきたいと考えており、Dance Dance Dance @ YOKOHAMA との連動企画としては、KSDC から独立させた Under-15 Dance Contest の開催等を検討しており、地域により近い身近な文化芸術を発信する機会としていきます。

音祭り2019 西江辰郎ヴァイオリンリサイタル →



4 応募理由

◆共同企業体としての想い

冒頭でも記載のとおり、私どもは、本センターの管理運営を行う目的で結成した共同体で、これまで3期15年間にわたって運営してまいりました。当初は、初めて挑む業務でもあり不安もありましたが、現在では、利用者の方々から、ご満足の声も多くいただくようになりました。それらは、ひとえに行政、地域の方々、ご利用者、多くのアーティストの方々等のご支援、ご協力の賜物と感謝しております。

今後は、安定的な安心・安全運営に加え、これまで培ってきたノウハウと、共同企業体3社の専門性と統合力を基盤に、より地域の皆様が有機的につながる、文化・芸術のポータルな場、求心力を発揮する場へと昇華させていきたいと考えております。

次期運営を任された折には、区民文化センターに求められる使命の達成に向けて努力することはもとより、地域活動団体や機関等と連携を密にして事業展開するほか、文化・芸術に関する地域コーディネーター役を担うことで、さらに地域の方々とのつながりを深め、港南区の様々な価値にスポットライトを当て、区の魅力づくりの一助となることで、ご恩返しをしていきたいと思っております。

代表団体 京急アドエンタープライズ の 応募理由

私ども京急グループにとって、上大岡は特別な地です。今から91年前、昭和5年(1930)の上大岡駅開業以来、沿線の宅地開発、バス路線の整備等が進み、京急73駅中、第3位の乗降客数を誇る駅となりました。平成に入ってから、横浜市とともに行った、本センターのある「ゆめおおおか」の再開発により、京急初となる百貨店の創業を実現し、地域の方々には好意的に受けとめて頂き、数多くの応援もいただきました。上大岡駅は移動のための駅から、集う場としての駅に変貌を遂げ、地域住民の方々との距離が最も近い駅になったとも言えます。昭和から平成、そして令和にかけて、この街の歴史と共に歩んできた京急グループとしては、この地を中心に据え、新たな時代に向けた地域の活性化に取り組む使命があります。

この上大岡にある本センターの運営に弊社が携わって15年。自主事業やアウトリーチ事業等さまざまな活動を通じて、地域の皆様から一定の評価は頂いてきましたが、一度もご来館頂いていない方もいらっしゃることで、区の抱える深刻な少子高齢化への対応やハンディキャップをお持ちの方に対する文化施設としての役割を十分に果たせていないこと、などの課題があることも理解しております。これらの課題克服のための施策については、議論を重ね改善を進めて来ましたが、本センターの存在は知っていても、敷居が高く足を踏み入れたことがないという方々も少なくないことから、2021年度は改めて「“ひまわりの郷”は開かれた館へと生まれ変わります」というスローガンを掲げ、気軽に立ち寄れる施設とするための取組に着手しました。

ウィズコロナ・アフターコロナの新たな時代においては、人と人とのつながり、人として大切な感受性・精神性、自然、など、心の豊かさにつながる価値観が、今まで以上に重要視される傾向が強くなると考えられ、文化・芸術の果たす役割はますます大きくなります。その中で、港南区の文化芸術の中心を担う施設としての地位を確立するためには、自身の生きがいや生活の彩りを享受できる施設として認識してもらえるためのコンテンツの提供と、その事業内容が地域の皆様に伝わるのが重要ですが、「伝わる」コミュニケーションは一方通行の訴求では限界があり、双方向で実感、体感を伴うものである必要があります。スタッフ一人ひとりが、地域の皆様と相互にコミュニケーションをとり、新たなつながりや活動へつなぐ橋渡しをしていくことで、「伝わる」コミュニケーションが実現するものと考えます。第4期目は、改めて初心に帰り、これまでとは異なる新しい文化価値を創造し、地域の皆様の心の幸せと地域の活性化に貢献していきたいと考えております。

4 応募理由

構成団体 クラフト の応募理由

私たちは、「創造的コミュニケーション企業を目指す」という企業理念のもと、舞台技術の専門家としてラフォーレミュージアム・六本木ヒルズアリーナ等のホール運営管理から、照明や音響、舞台のデザイン、オペレーション、各種イベントの企画、制作、運営、演出まで幅広くコンベンションビジネスを手がけています。

イベントやアートなどの直接的なコミュニケーションのエキスパートとして、利用者へのアドバイスや技術サービスの提供を通じ、港南区民の創造発信をアシストしてまいります。

芸術文化は豊かな人間性を育て、想像力・創造力を育むなど人間が人間らしく生きるための糧となるものであると同時に、活力ある社会の実現、さらには個性豊かな地域づくりにおいて重要な役割を担っています。ことに現在は、全世界がコロナ禍の中で、感染の恐怖や様々な規制に拘束され、芸術文化の世界においても、その表現の場が著しく制約され、業界全体が厳しい状況に置かれています。しかし、ワクチン接種が徐々にではありますが進められ、微かではありますが収束への期待も膨らんでいます。

2年近い期間、今までとは違う生活様式を強いられてきた多くの人たちにとって、ライブでの芸術鑑賞への渴望は非常に強いものであると想像できます。その時こそ芸術文化に渴望してきた人々を受け入れるのが施設の重要な役割であり、弊社の使命であるという考えから今回も応募させていただきました。

3期15年に渡って築き上げてきた地域との関わりを活かし、さらに新しい生活様式での情報発信のあり方を構築し、多くの方が感動を共有する時間と場所を全力で提供して参りたいと思います。

構成団体 京急サービス の応募理由

指定管理期間 15年間の運営管理の中で、強く感じたことは、本センターが地域の皆様から愛されており、「私たちの施設」として多くの方に利用されていることです。

ご利用者のニーズや満足を理解し、忖度できることが現指定管理者の最大の強みであるとともに、25年にわたり、ゆめおおおか地区における商業施設やオフィスビルにおける管理を行うことで培ってきた経験値を最大限、本センターの管理運営に活かし、さらに利用者の皆様にご満足頂ける施設にしたいという、「全スタッフの思い」こそが、応募する一番の理由です。

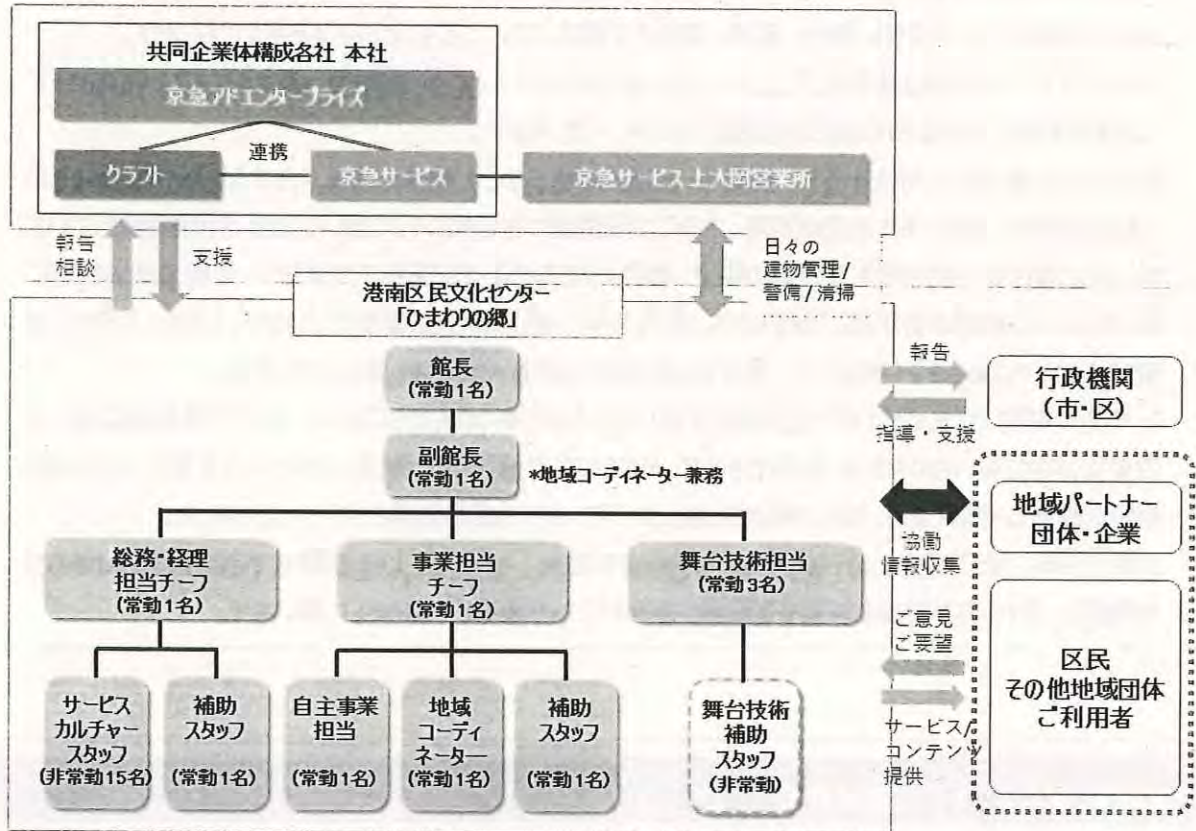
ゆめおおおか地区での管理業務においては、管理組合や入居する各施設との密な連携や情報共有が、非常に重要であることを痛感する場面も多く、25年の月日で築き上げた施設内でのコミュニケーション体制が、弊社の最大の強みであり、日々の管理、また有事の際にも円滑な対応を可能にするものと考えております。

また、第4期においては、さらに積極的に本センターと関わり、文化・芸術振興の一助となる取組も行っていく予定です。弊社の保育事業と連携し、子どもと子育てファミリーをターゲットとした事業における保育コンテンツの提供などで、地域の皆様と繋がって行きたいと考えております。

5 運営組織の構造、開館時間の勤務シフト、休館日設定の考え方

◆運営組織の構造

本センターの運営については、共同企業体構成会社のうち、京急アドエンタープライズとクラフトの常駐スタッフが企画・運営を行い、京急サービス横浜支店上大岡営業所のスタッフが、施設管理、警備、清掃を日々巡回のうえ行うという役割分担で、各企業の本社が連携しながらそれをサポートするという構造で遂行します。(下図参照)



◆運営体制

上図のとおり、館長、副館長の下、総務・経理全般を担当する総務・経理担当、自主事業等の企画運営や広報業務を担当する事業担当、舞台技術担当と3つの部門を置き、総務・経理担当は、チーフおよび補助スタッフが各1名、事業担当には、チーフの下、自主事業担当、地域コーディネーター、補助スタッフが各1名ずつを配置し、計8名を施設運営全般に関わるスタッフとし、シフト制により常時2名で施設の企画管理運営にあたります。

「地域コーディネーター」は、文化的コモンズの形成を実現するためには、地域の団体や区民や利用者の方々とのコミュニケーションを強化することが必須であるという判断から、第4期より新設するポストです。

舞台技術者については、舞台技術担当3名の常勤者でシフト勤務に就き、必要に応じて非常勤スタッフ3名がサポートする体制をとっています。

また、受付業務等を行うサービスカルチャースタッフについても、15名がシフト勤務にて対応します。

◆開館時間の考え方

開館時間は午前9時から午後10時までとします。

この基本開館時間外のお客様の入場は、原則としてお断りしますが、利用者の方が開演前設営や閉演後の撤収等の作業のために立ち入ることを希望される場合は、事前に承認された場合に限り、(ゆめおおおかビル管理組合への届け出と区の承認を受けたうえで)時間外利用の対応をいたします。

5 運営組織の構造、開館時間の勤務シフト、休館日設定の考え方

◆開館時間の勤務シフト

施設運営に関わるスタッフは、開館時をカバーする早番(8:45～17:15)と閉館時をカバーする遅番(13:30～22:00)の2種のシフト勤務を原則とし、週休2日、連続5日勤務までとします。

催事等で舞台装置、音響、照明の各技術者が複数必要となった場合は、グループ企業内から非常勤の舞台技術者(変型労働時間制の通し勤務可能者)を派遣し、利用者のニーズに対応します。

利用申請や受付案内業務に従事するサービスカルチャースタッフについては、勤務時間区分を午前(8:50～13:00)、午後(12:50～18:00)、夜間(17:50～22:00)の3通りとし、それぞれの区分ごとに5名ずつの人員を揃え、常時2名ずつが勤務します。自主事業開催時は、カルチャースタッフの非番者のほか、各グループ企業本社から応援スタッフを派遣し、十分な対応スタッフ人数を確保します。

【勤務シフト表】

	館長(管理責任者)	副館長	総務経理担当チーフ	事務担当チーフ	自主事業担当	地域コーディネーター	補助スタッフ	補助スタッフ	舞台技術担当	舞台技術担当	舞台技術担当	(非常勤) 舞台技術担当	(非常勤) 舞台技術担当	(非常勤) 舞台技術担当	カルチャースタッフ 午前	カルチャースタッフ 午前	カルチャースタッフ 午前	カルチャースタッフ 午前	カルチャースタッフ 午後	カルチャースタッフ 午後	カルチャースタッフ 午後	カルチャースタッフ 夜間	カルチャースタッフ 夜間	カルチャースタッフ 夜間
1	月	早	遅			早	早	遅	早					遅	前	前				後	後	夜		夜
2	火	早	遅	早	遅				早	遅					前	前				後	後	夜	夜	
3	水	早	遅			早	早	遅	早						前	前			後	後		夜	夜	
4	木	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後			夜	夜
5	金	早	遅			早	早	遅	早						前	前			後	後			夜	夜
6	土	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
7	日	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
8	月	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後			夜	夜
9	火	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後			夜	夜
10	水	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
11	木	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
12	金	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
13	土	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
14	日	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後			夜	夜
15	月	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
16	火	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後			夜	夜
17	水	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後			夜	夜
18	木	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
19	金	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
20	土	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
21	日	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後			夜	夜
22	月	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
23	火	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
24	水	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
25	木	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後			夜	夜
26	金	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
27	土	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
28	日	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
29	月	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後		夜	夜	
30	火	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後			夜	夜
31	水	早	遅	早	遅				早	遅					前	前			後	後			夜	夜

◆休館日設定の考え方

年末年始(12月29日～1月3日)以外に、毎月第3水曜日(2・8月は、第3火曜日、水曜日の2日間)を休館日として設定し、舞台の機構や音響・照明設備、ピアノやギャラリー展示パネル等、定期的な保守点検を行うほか、その休館日を利用し、施設スタッフの一斉研修や訓練等を行います。

これらの休館日については、事前に施設内外の掲示物をはじめ、ホームページ、SNS、施設広報誌を通じて利用者への周知を図ります。なお、横浜市や港南区から開館の要請がある場合には、休館日であっても臨時で開館いたします。

6 必要人材の配置と職能、主要人材の能力担保

区民文化センターのスタッフは、来館されるすべてのの方々に対する安全と快適を提供するとともに、文化芸術の相談窓口としての役割、さらには助言する立場であることから、適正な職能を持った人員を配置し、業務への心構えや技術を高めるための研修を行うなどして、モチベーションの保持と質の高いサービスを提供していきます。

◆必要人材の業務内容と必要な職能

職種	人数	業務内容	必要な職能
館長 (施設管理責任者)	1名	<ul style="list-style-type: none"> 文化事業、施設管理運営に関わる業務責任者 コンプライアンス責任者 構成団体間の調整責任者 全体業務の統括責任者 職員の教育・指導・育成の責任者 甲種防火管理者/防災管理者 	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設運営のノウハウを有し、管理職としての経験が豊富で、スタッフをまとめる統率力と人事マネジメント能力を有すること。 地域とのコミュニケーションを積極的に図り、地域の声を傾聴し、事業・業務に反映できること。 区、区内施設・関係機関・各種団体・企業等との折衝や密な連携をとることができること。 組織をまとめ、施設の設置目的・役割を全職員に浸透させ、提案書の内容を着実かつ効果的に実施できるようマネジメントできること。 法令順守、個人情報保護法等、コンプライアンスの徹底ができること。 甲種防火管理者/防災管理者 有資格者
副館長 (施設運営責任者)	1名	<ul style="list-style-type: none"> 館長(全体業務統括)の補佐 運営(業務とりまとめと進行管理)責任者 文化事業の企画、実施。貸館業務、広報など利用者支援の責任者 年次事業計画、報告、モニタリング、各種調査対応等の調整および提出書類作成 利用促進、貸館におけるサービス向上や、施設の各種改善 利用者のご意見、ご要望、苦情等への対応 職員の教育・指導・育成 	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設で5年以上の勤務ならびに事業企画、運営の経験者 芸術の専門教育を受け、アートマネジメント、文化によるまちづくり等の基礎知識を有すること。 出演者や講師との連絡や交渉、事業参加者からの要望等に対応できるコミュニケーション能力を有すること。 事業、運営、管理すべての面での経験と実績を持ち、中長期的な視点で地域に根差した事業運営や人材育成活動、コーディネート業務を遂行できること。 甲種防火管理者/防災管理者 有資格者
総務・経理 担当チーフ	1名	<ul style="list-style-type: none"> 各種連絡調整に関する事項 委託業者の監督指導 区民運営組織との連携および調整 施設/備品管理/改修、修繕計画 市民利用システム運用の責任者 スタッフの雇用等人事に関する事項 経理事務(会計、出納、物品管理) 各種統計処理に関する事項 カルチャースタッフの補助/教育 総務 	<ul style="list-style-type: none"> 総務、経理、営業等のOA機器を使用した事務職での十分な経験を持つこと 舞台の専門的な知識を除く、設備備品に習熟し、利用の指導、助言ができること。 経理、総務、雇用に関する基本的な知識を有すること。
総務・経理 担当補助スタッフ	1名	<ul style="list-style-type: none"> 経理/総務業務補助(施設利用料の出納、事業収入、支出管理) 	<ul style="list-style-type: none"> 総務、経理、営業等のOA機器を使用した事務職での経験を持つこと。
事業担当チーフ (企画運営担当)	1名	<ul style="list-style-type: none"> 文化事業の立案・企画・実施 各種広報計画・制作・実施 他地区の区民文化センターとの企画調整・実施協力 各施設貸出し諸手続きおよび利用者対応 区民文化センター各施設の活用の周知、宣伝 各種統計処理に関する事項 カルチャースタッフの補助/教育 	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設での事業等の企画、実施経験が5年以上。 事業、運営、管理すべての面での一定の経験と実績を持つこと。
自主事業担当	1名	<ul style="list-style-type: none"> 文化事業の立案・企画・実施 広報に関わる計画・制作・実施 他地区の区民文化センターとの企画調整・実施協力 各施設貸出し諸手続きおよび利用者対応 区民文化センター各施設の活用の周知、宣伝 	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設での事業等の企画、実施経験が2年以上。 事業、運営、管理すべての面での一定の経験と実績を持つこと。
地域コーディネーター	1名	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動団体、行政、地域企業等関係機関との連絡調整、交渉 区民ネットワークのマネジメント 文化事業の立案・企画・実施 区民文化センター各施設の活用の周知、宣伝 	<ul style="list-style-type: none"> 広報宣伝業務経験を持ち、文化事業に幅広い知識、興味を有すること。 交渉力と関係団体との良好な関係を築くコミュニケーション能力を有すること。 地域の人材発掘に意欲があり、地域の要望等に的確に対応できる能力を有すること。
事業担当補助スタッフ	1名	<ul style="list-style-type: none"> 事業担当の業務補助 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に生活基盤を持ち、地域の実情に明るく、文化芸術に興味があり、施設運営に積極的に取り組む姿勢を有すること。
舞台技術担当	3名	<ul style="list-style-type: none"> 舞台設備および機器等の安全管理 利用者の設備等利用相談および見学説明対応 利用者の設備等利用立会い、管理監督業務 公演時の軽易な機器の仕込みおよび操作補助 	<ul style="list-style-type: none"> 施設技術スタッフとしての経験が2年以上。 舞台・音響・照明、各分野における専門知識と技術を有すること。
サービスカルチャー スタッフ	15名	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用申し込み受付、施設案内、電話対応 備品貸し出しおよび管理、用具類の保全 軽易な日常清掃業務 文化事業および庶務業務補助 各種チケット販売 主催イベントの実施補助等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に生活基盤を持ち、地域の実情に明るく、文化芸術に興味があり、参加意欲があること。 良好な接客態度で臨めること。
全スタッフ	全員	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命/個人情報保護/事故防止に関する事項 	

6 必要人材の配置と職能、主要人材の能力担保**◆各責任者、他の職員の確保(採用等)の状況および方法**

基本的には、第3期において本センター業務を行っている経験豊かなスタッフを第4期も引き続き配置しますが、新たに必要な職能を備えた「地域コーディネーター」を配置し、地域とのコミュニケーション強化を図っていきます。

新規にスタッフを採用する場合は、地域の情報やネットワークを利用者のニーズ分析や、地域連携に活かすために、地域からの雇用を積極的に行います。

◆責任者のプロフィール

上述のとおり、館長は第3期より継続して担当します。

【施設長＝館長 経歴】

平成25年4月～平成29年3月

区民利用施設協会事務局長として勤務。傘下10施設の運営管理に携わる。

平成29年4月～

区民文化センター館長として勤務

◆チームワーク醸成の取組方法

チームワークの醸成は、スタッフの力を最大限に活用するために重要な事項といえます。

毎日、始業前に10分程度の朝礼を行い、当日のスケジュール、事業の流れ、メンバーの役割を相互に確認し合います。

そして、月に1回行われる館長主催の定例会議と、隔週で行われる副館長以下、総務・経理チーフ、事業担当チーフおよび地域コーディネーターで行う企画会議により、目標や情報の共有を行います。

特に自主事業の企画については、隔週の企画会議の前に、地域コーディネーターが発信する情報に基づき、全スタッフからのアイデアを募る取組をしていきます。

また、行政からのさまざまな連絡事項、区内の関連施設における事業情報、区民文化センター館長会議の内容等を全員が把握できるよう情報共有を行い、感染症や災害情報、施設近隣での事故情報等についても全員で共有します。

さらに、年2回行われる全体業務研修は、全職員が一同に会する機会であるため、その際に懇親会を行うなど、コミュニケーションを深めています。

これらの取組により、全スタッフ一丸となり、共通の目的意識を持って本センター運営に臨む姿勢を醸成していきます。

6 必要人材の配置と職能、主要人材の能力担保

◆主要人材の能力担保

すべてのスタッフが、「地域に根差した個性ある文化の創造に寄与するため」(区民文化センター条例)という区民文化センターの設置目的を理解したうえで、常に利用者の立場に立って業務が遂行できるよう、指導や研修参加を徹底します。

①実地研修(OJT)

新規採用、配属スタッフの導入研修やシステム変更に伴う実務研修は、実地研修による教育を主とします。

項目	受講対象	主な内容
指定管理者としての心構え	新規採用職員	新規採用時に指定管理者制度や、個人情報保護、開示などについての研修を行う。
予約システム操作・受付業務研修	新規採用スタッフ	一カ月程度の期間 OJT にて習得。
受付業務研修	スタッフ	システム操作や事務処理方法等の変更に合わせて、その都度研修を行い、的確な対応ができるようにする。

②年間研修計画

外部団体主催の研修と、休館日等を利用して行う全てのスタッフが対象の内部研修を下記のとおり設定し、すべてのスタッフが同等の知識とスキルを持って業務に当たれるよう、スケジュール化し、確実に取り組んでいきます。

【外部開催】

項目	受講対象	回数	主催者
指定管理者研修	担当職員	1回 / 年	横浜市
公共施設の維持管理研修	担当職員	1回 / 年	横浜市
港南区施設交流会研修	館長 もしくは 副館長	1回 / 年	港南区
区民向け人権啓発推進研修	担当職員、スタッフ	1回 / 年	港南区
施設予約システム操作研修	担当職員、スタッフ	原則1回 / 年	横浜市
公文協研修(内容は適宜)	担当職員	数回 / 年	県公文協
ゆめおおおか消防訓練全体防災避難訓練研修/訓練	副館長、職員	2回 / 年	ゆめおおおかビル共同防火防災管理協議会
館長会議	館長	4回程度 / 年	市内区民文化センター等館長会

【内部開催】

項目	受講対象	回数	備考
個人情報保護研修	全員	1回 / 年	保護規定、10か条
人権啓発研修	全員	1回 / 年	
全体業務研修	全員	2回 / 年	
接遇研修	全員	随時	
救命救急研修	全員	2回 / 年	AED、人口呼吸法
防災・避難訓練	全員	2~3回 / 年	
帰宅者困難収容施設としての研修	全員	1回 / 年	

7 施設の使命を達成するための取組 使命1

【使命1】文化芸術の活動と体験の場となる

文化芸術に関する活動と体験の場を提供することで、市民の活動を支援する。

気軽に参加できる文化芸術体験と交流から、新たなチャレンジや生きがいを見出せる場へ文化芸術が「観る」から「する」に変わるとき、多くの人がそこに楽しみを見出し、人とのつながりが生まれます。これまでも、「45 シアター」やアウトリーチ等で体験型事業に力を入れてきましたが、それらに参加したことがきっかけで、そこで知り合った人たちとともに継続して活動をされる方も多くみられることから、体験の場づくりは文化的コモンズ形成実現の足掛かりとしても重要度が高いといえます。第4期では、まずは「やってみよう」と思える、より参加しやすい環境づくりとコンテンツの提供を重点施策の一つと位置付け、さらに利用者の裾野を広げていくことを目指します。

【使命1を達成するための具体的な取組】

取組1 気軽に参加できる文化芸術体験の場と機会を提供

Ⅰ. 情報コーナーを核としたパブリックスペースでカジュアルワークショップ

通勤・通学、買い物や食事等さまざまな理由で日常的に来街する人が多い上大岡においては、事前に予約や申し込み手続きが必要なワークショップとは異なり、買い物ついでに気軽に立ち寄って、文化芸術体験ができる機会を提供することも利用者促進、認知度向上の上でも重要と考えます。

本センターは、各施設の利用率が比較的高いこともあり、運営効率の面から、新たに情報コーナーを核としたパブリックスペースも活用し、週末を中心に文化芸術体験コンテンツを提供していきます。

また、各利用団体の発表の場としても活用し、自由に観覧ができる環境を整備し、交流の場としても機能させます。

① 横浜女子短期大学（保育科） / 街のアドバイザー / 港南区内読み聞かせグループ 等との連携による子育てファミリー向けワークショップの開催

- ・絵本の読み聞かせ ・折り紙教室 ・季節ごとの工作教室（七夕・お月見など）
- ・親子であそび「あそび」講座 など…

Ⅱ. ひまわりの郷プレゼンツ「ストリートピアノ」@ゆめおおおか

上大岡を行き交う人達が自由に奏でることのできるストリートピアノを本センターが設置運用し、本格的な音楽ホールのある街として気軽に音楽に触れ、音楽を介してコミュニケーションを広げていける場を創造します。音楽のほか、アートにも触れられる場所であることを訴求する意味も込め、使用できない時間もアートとして鑑賞できるしつらえとします。開業当初から課題の一つでもある本センターの立地不案内の解消や、自主事業の告知としても機能させていきたいと考えております。

（使用できる時間帯や曜日は限定、設置場所は京急百貨店 10F のレストランフロアもしくは、ウイング上大岡 2F ガーデンコートいずれかで調整中）

7 施設の使命を達成するための取組 使命1

【使命1を達成するための具体的な取組】

取組2 バリエーション豊かなワークショップの開催

本センターの強みである音響のよいホールがアピールできる音楽に関するワークショップと、わが町・港南区に対する興味、愛着やプライドを持てる内容のほか、幅広い嗜好の人たちへアプローチできる生活につながる文化・芸術活動の参加型コンテンツを「45 シアター」の新規メニューに取り入れるとともに、情報コーナーでのワークショップとして提供します。

①音楽を感じる・奏でる・歌う

音楽を「感じる」「奏でる」「歌う」という切り口で、現状行っている器楽ワークショップを拡充し、音楽を始める人の裾野を広げます。 (新設ワークショップ例) ボイストレーニング講座 など

②ふるさと港南(横浜)の魅力再発見

地元の歴史や伝統技術を知る、大人のための教養ワークショップ。男性の利用者促進にもつながるコンテンツを展開します。

例) 横浜ふるさと歴史財団の協力を得て開催する歴史講座(令和4年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にちなんだ講座など)・伝統技術体験(横浜捺染・デザインワーク)・街歩きフォトセッション(史跡・電車のある風景など)

③生活密着型コンテンツ

・環境やSDGsへの意識を高める「エコ&アート」を切り口としたワークショップの設定

例) ペットボトルアートクラフト/自然の素材を使ったアート

④日本の伝統芸能や文化の魅力に触れるワークショップ

例) おもしろ落語講座(江戸文化、話し方、所作) など

⑤大人向けのワークショップと発表の場の提供

「こうなん文化交流協会」「街の先生の会」「街のアドバイザー」等にご協力いただき、大人のためのワークショップを実施し、情報コーナーやギャラリーで成果発表を行うなどして、集いの場を提供します。

取組3 区内の小・中学校/特別支援学校を巻き込んだ体験型事業の展開

①バックステージ見学会/舞台技術体験

区内の小・中学校、特別支援学校の生徒を対象とした校外学習プログラムとして、施設内、舞台機構の見学に加え、技術スタッフによる舞台演出のデモンストレーションなどを行い、舞台芸術を裏で支える技術、設備、スタッフに対する興味へと繋げていきます。

中学生の「職業体験学習」の受け入れとして実施していた時期もあり、中学校長会へのヒアリングに基づくニーズに応じて、プラットフォーム事業の一環として舞台技術講習会を開催するなど、未来の舞台芸術を支える人材育成への一助としていきます。



バックステージ見学会

7 施設の使命を達成するための取組 使命1

【使命1を達成するための具体的な取組】

取組4 ソーシャルインクルージョンの視点に立ち様々なターゲットに向けた体験型企画の開催

①子ども・子育てファミリー/小学生/中学生向け

1) 新規展開場所を活用したバリエーションの充実と、気軽に立ち寄り参加できる展開へ
「リトミックシアター」や「子どもミーツ♡オーケストラ」のほか、子どもと一緒に参加できるワークショップや鑑賞型事業の人気は高く、子育てサポートに寄与できる体験型ワークショップを充実させていきます。リトミックは、継続して開催するほか、取組1で記載した、パブリックスペースを使用した新設のワークショップなどで、バリエーションと参加者を増やしていきます。

2) 横浜市芸術・文化・教育プラットフォーム事業への対応

前ページ記載の舞台技術体験以外にも、小中学校、特別支援学校に対する「横浜市芸術・文化・教育プラットフォーム事業」については、第4期も鑑賞型、体験型双方のプログラムをご要望に応じて展開します。

②障害者向け

1) 本センター内開催の自主・共催事業の展開

障がい者スポーツ文化センター「ラポール上大岡」、港南区社会福祉協議会、港南区障害者団体連絡会との連携で、事業への積極的な協力を相互に行っていきます。

特にゆめおおおか内施設である「ラポール上大岡」とは、令和3年のサマーフェスタで、ライブペインター KENSUKE TAKAHASHI 氏による、障害者の方々も参加できるアートワークショップを開催することになっており、出来上がった作品は、本センターのギャラリーで展示するほか、パートナー団体*の施設など、区内複数の拠点で活動を紹介する予定です。これを皮切りに、音楽など他ジャンルの体験型イベントへも取組を広げていく予定です。また、障害者の方を含むあらゆる人が楽しめる、区民参加型の「手話ミュージカル」も、継続して開催します。

2) アウトリーチ事業

障害者向けのアウトリーチ事業は、これまで鑑賞型のプログラムを中心に行ってきましたが、第4期は、これまで実施してきた「よこはま港南地域療育センター」における工作教室のほか、パートナー団体*との共催や、協力により、障害者の方も参加できるアートや音楽に関わるアウトリーチ事業を新たに追加していきます。

*「パートナー団体」の詳細は、35P 参照

③高齢者向け

1) 高齢化社会に即したプログラムの展開

「健康×音楽」を切り口としたコンテンツを老人福祉センターなどとの協業で開催します。

例) ・音楽で脳トレ ・うたいそう など

2) 高齢者と子どもたち、世代の異なる活動と接点をつくる事業の展開

例) 昔語りや伝統遊びなどを子どもたちに教え伝える。

子どもたちに学ぶ Tic Tok、スマホアプリの楽しい使い方 など

3) 来館の難しい方に向けたアウトリーチ事業メニューの充実

老人福祉センターやケアプラザにおけるアウトリーチ事業については、今まで鑑賞型事業を主にやってきましたが、体験型事業のプログラムも用意しご要望により展開していきます。

7 施設の使命を達成するための取組 使命1

取組5 「ひまわりファミリーミュージカル」の継続開催

11年間、継続的に開催してきた「ひまわりファミリーミュージカル」は、普段はなかなか気軽に参加することが難しい、ミュージカルのステージに立つことができるという、「横浜シテオペラ」と協働で行っている市民参加型事業です。幅広い年齢層の参加者が、発表会を目標に、何度も練習しステージを作り上げていきますが、これまで複数回参加している人たちも多く、将来的には区民劇団として育てていく可能性も視野に入ってきました。現状は、さらに多くの方に体験していただき、ミュージカルを続けていきたいと思える人たちの裾野を広げていきたいと考えております。

【提案者が提案する指標】

①情報コーナー活用事業数と参加者数

5年目時点で、年9回の開催、参加者数180人の達成

②新ジャンルの体験型ワークショップ開催

5年間で、取組2に挙げた、5つのテーマ(①音楽 ②ふるさと港南 ③生活密着 ④伝統芸能 ⑤大人向け)に沿った事業を新たに実施する

【業務の基準で設定している指標】

目標値 ※提案者記載部分

		2年目	5年目
定量指標①:貸館利用率(ホール、ギャラリー)	ホール	82.5%	86.6%
	ギャラリー	89.5%	94.0%
定量指標②:来場及びWEB参加等他の手法を用いた総参加者数		109,300人	115,400人
定性指標①:利用者の状況についての現状把握 受付ですべての団体に行っている、属性、利用人数、中学生以下・以上の別を聞き取る「利用状況調べ」は継続し、毎年特定月(2月)にインタビュー調査をトータル50件実施。 インタビュー内容:上記に加え、利用目的、利用者年代、ご意見、ご感想等		2年間の自主事業参加者・貸館利用団体の利用状況、利用者属性を把握し、事業運営に活かされている。	5年間の自主事業参加者・貸館利用団体の利用状況、利用者属性を把握し、事業運営に活かされている

【上記の取組を行う理由】

冒頭でも記載のとおり、文化芸術は自分自身が体験することによって、より身近な存在となり、それまで以上に自己肯定感や新たな満足感を得ることができ、それが文化芸術の力であると認識しています。

そのため、多くの市民の方々に、手の届きやすいコンテンツを目に触れやすく提供し、参加しやすさを重視した取組としています。本センターの事業への参加による体験を通じて「自分自身の文化・芸術の扉をたく」きっかけとしていただけることを目指して、この体験型事業に取り組んでまいります。

8 施設の使命を達成するための取組 使命2

【使命2】文化芸術活動を担う人材を育む

地域で文化活動に興味を持ち、活動を主導する人材を増やすことで、地域住民の文化芸術活動の可能性を広げる。

「自身が輝ける場を自らプロデュースできる人」の掘り起こしと育成に取り組めます。

第3期では、文化芸術活動に関する相談窓口を設置し、相談応需体制を整えましたが、第4期では、区民の方々が本センターで行う公演の演出に関するサポートやアドバイスを積極的に行い、利用者の方々が自発的に様々な趣向を凝らして活動していけるよう促していきたいと考えております。

そういった自発的に活動をしたいと思う人をどれだけ増やせるかが、文化芸術活動の担い手づくりの鍵になると思われます。自分の好きなことを好きな人たちと行い、それを披露するという充実感や楽しさが体感できる場所として、本センターが位置付けられることが最も重要であり、そのための機会の提供とサポートに注力していくことで、次の世代へ活動のバトンがつけられるような取組を行っていきます。

【使命2を達成するために具体的な取組

取組1 サマーフェスタにおけるボランティアスタッフの募集と定着化への試み

ボランティアスタッフの確保や育成は、なかなか定着が難しい課題の一つです。新しい施策として、パブリックスペースで行う気軽なワークショップの導入や交流スペースとしての利用の導入により、区民の方々が特技を活かして、例えば折り紙や昔ながらの遊びを子どもたちへ教えるなどの活動がしやすい環境が整います。

そういった活動や交流を求める方々を掘り起こすため、多くのボランティアスタッフが必要となるサマーフェスタにおいて、テーマを絞ったボランティアの希望者を募る予定です。(令和3年度にてトライアル)

フェスタ終了後も定期的に活動を行いたい方を本センターで受け入れ、活動のローテーションを組むなどして、定着化を狙うとともに、友人の方々へも広めていただくよう促していくことを想定しています。

また、本センターのカルチャースタッフとして働いた経験があるOB・OGの方々を本センターの応援団的な「ひまわり友の会(仮称)」に登録していただき、希望される方にはボランティアとして、引退後もこのセンターに関わって文化・芸術活動のサポーターとして、ご活躍いただける環境を整備し、ボランティアスタッフとしての定着化も目指します。



ボランティアを含むサマーフェスタのスタッフ

8 施設の使命を達成するための取組 使命2

【使命2を達成するための具体的な取組】

取組2 KSDC (KOUNAN STREET DANCE CONTEST)の充実

平成18年度より継続的に開催してきた高校生の自主運営ダンスコンテスト「KOUNAN STREET DANCE CONTEST (KSDC)」は、Under-15 (小・中学生の部) 大会の開催が加わるなど、さらなる広がりも見せ、好評を博してきました。

活動を主導する人材育成という観点からも、一定の成果を出してきたといえますが、Under-15を設定したことにより、運営スタッフを務める高校生たちとの継続的な関係構築が希薄になる側面も出てきました。

高校生の優勝チームについては、地域の施設での公演依頼が入るなど、その認知とネットワークは広がりつつあるため、継続的に本センターと関わってもらおうべく、コンテスト後の課題抽出や、次年度への示唆なども含め、原点に戻ってサポート体制を再構築していく必要があるのではないかと結論に至り、第4期からは高校生の部に絞って継続していきます。

* Under-15大会は、横浜市の周期催事Dance Dance Dance @ YOKOHAMAの運動催事として展開予定

一方で、本センターのエントランスフロアの屋外では、毎日のようにダンスの練習をしている学生を見かけます。それは、1組だけではなく、いくつものチームが、日が暮れてもなお練習を続けています。

本センターはKSDCを通じて学生のダンスを応援する立場でもあることから、音楽ルームの予約の入っていない平日の2コマ (区分3:15時～17時・区分4:17時30分～19時30分) を当日の15時に抽選のうえ、無償で使用できる試みをスタートさせます。

それにより、KSDCへの参加モチベーションを高める、他のダンス仲間への口コミを狙うなどの効果が期待でき、KSDCをさらに盛り上げる施策の一つとするとともに、若い層の利用者促進にもつなげていきたいと考えております。



KSDC 2019



普段はギャラリーに向かうガラス面を姿見にして練習

8 施設の使命を達成するための取組 使命2

【使命2を達成するための具体的な取組】

取組3 テクニカルワークショップ「仲間と一緒にコンサートを開こう！」

本センターのホールという「場」、音響・照明機材という「モノ」、技術という「ノウハウ」を活かし、区内の高校生バンドを募集し、プロのアーティストが行うようなコンサートを企画から演出までを体験するワークショップを開催。本センタースタッフのサポートのもと、事前のチラシづくりをはじめとする告知、演奏の練習、会場設営、リハーサル、本番の運営・演出、後片付けまでをプロのコンサート企画と同様の体験をすることで、芸術活動の裏方業務も体験してもらいます。

多くの参加者へ、舞台美術や照明等も含めた舞台制作に関わる仕事があることを知っていただき、興味を持っていただく機会を提供し、その後も仲間たちと自主的にイベントを開催する可能性へとつなげていきます。



取組4 区内中学校の吹奏楽部を応援

港南区の横浜市立中学校 10 校のうち、9 校が吹奏楽部を持っていますが、音量やスペースの問題で、良い環境で練習する機会は少ないといえます。

これらの吹奏楽部のうち大会を目指す学校を対象に、本センターのホールを練習場所として提供し、支援する取組を行うことで、長く音楽を続ける人材を育て、区民の音楽への意識の底上げにも貢献します。

本センターのホールは、音楽演奏に特に適した構造のため、その音響の良さを体感していただくとともに、学校の音楽室や教室での練習では調整が難しい「ホールでの音のまとまり、響きの調整」を主眼とした本番を想定した練習により、例年よりも良い結果を出せるように協力を行います。

また、ホールを使っていただくことで、本番前の楽器、椅子、譜面台のセッティングから演奏、退場までの一連の流れでの練習も可能になり、本番での緊張対策や時間配分にも貢献できると考えます。

募集は、中学校校長会を通して行い、夏の吹奏楽コンクール地区大会（2019 年の場合 7 月 27 日～29 日の 3 日間開催）の前に、本センターホールを練習場所として希望学校に提供することを想定し、上位大会に出場が決まった場合には、相談、調整のうえ、さらに 1 回無償提供することを検討します。

大会出場後は、利用校の合同発表会や、サマーフェスタでの演奏会などの発表の場も提供し、区民を挙げて応援できる存在へと引き上げ、さらに完成度の高い音楽・演奏を目指していただくとともに、彼らが中心となって、卒業後も色々な場面で本センターを活用していただくことを目指します。

8 施設の使命を達成するための取組 使命2**【提案者が提案する指標】**

中高校生を対象とした事業(KSDC、テクニカルワークショップ、中学校吹奏楽部応援)を通して、その親たちのグループや応援者同士の音楽やダンスを通じた『仲間づくり』のサポートをするコーディネーターとしての役割を本センターの職員が自然な形で果たしているかどうかを図る指標として、それらの事業から新たに生まれた団体との事業を5年間で3回開催することを目指します。

【業務の基準で設定している指標】**目標値※提案者記載部分**

	2年目	5年目
定量指標①:次世代育成・若手アーティスト育成等に寄与する事業数	4	5
定量指標②:施設の事業に協力する地域住民(ボランティア等)の人数	19	25
定性指標①:子どもたちや学校の定性分析 * 幼児・小学生・中学生・高校生を対象とした事業終了後、3名にインタビュー調査を実施し、属性ごとの文化芸術への考え方、感覚、意見等をヒアリング	2年間で蓄積した参加者の生の声と参加者数等の分析結果がその後の事業運営に活かされている。	5年間で蓄積した参加者の生の声と参加者数等の分析結果がその後の事業運営に活かされている。
定性指標②:新たに参加した人の属性分析 * 人材育成事業の参加者に対してアンケート調査を実施。その中で、新規参加者の属性ほか、情報経路、参加理由等も明らかにする	2年間で蓄積した参加者の生の声と参加者数等の分析結果がその後の事業運営に活かされている。	5年間で蓄積した参加者の生の声と参加者数等の分析結果がその後の事業運営に活かされている。

【上記の取組を行う理由】

自分の好きなこと、得意なことでも人々の役に立ちたい、地域に貢献したいという人や、文化芸術活動に関わりたい、参加したいという人たちは、コロナ禍も影響し、ますます増えていると考えられます。そういった人たちの中に、文化芸術活動の担い手や、求心力が発揮出来るリーダー候補の方々が増えている可能性が高いため、まずは、気軽に来館し、自分の好きなことを披露でき、気の合う仲間と出会える場をつくる取組を行います。それは、ある地域団体との意見交換の場で、「共通の場で出会ったことをきっかけに、楽器やダンスの仲間づくりができ、活動を続けている」というエピソードに基づくものです。こうして事業の参加者から、新たにグループが増えていくことで、そのグループをプロデュースしていくとするリーダー的存在となる人が出現します。本センターの職員は、その仲間づくりと、その中で求心力を発揮するリーダー的存在となる人をサポートするコーディネーターとしての役割を果たし、次世代につながる活動の活性化を目指します。

また、昨今の学校事業を鑑みると、教職員の過重労働が問題視されている課題もあり、教育現場や生徒が求める課外活動に対して、本センターが担えることを把握し、一部でもサポートできるよう努めていきたいと考えております。